

「観光戦略プラン」の策定について

H16.11.29
産 業 労 働 部

第 1 策定の趣旨

チャレンジ

県は、「経済社会活性化戦略会議」の提言を踏まえ、昨年 12 月に「挑戦 戦ふく
い - 福井県経済社会活性化プラン」を策定した。

同プランは、「ビジット“ふくい”」という項目を設け、「歴史と心の観光」、「エンジョイ“スローライフ”」、「探訪“ふくい”」、「成果重視のアウトソーシング」を柱とする観光振興施策の基本的な方向性を示した。

「観光戦略プラン」は、これらを踏まえ、今後のより具体的な施策を明らかにするものである。

第 2 計画期間

平成 16 年度から平成 20 年度まで（5 年間）

ただし、平成 18 年度には中間的な成果の検証

第 3 基本的な考え方

- 本県経済社会の活性化の主役は「民間」であり、観光もまた本県経済社会を支える「産業」として「民間」が主役である。県は、「民間」のサポート役として、「民間」の能力が最大限発揮できるような環境づくりを行う。
- 現在実施している観光客の実態調査の結果を基に、目標を明確にして、今後の観光施策を推進していく。

第 4 推進体制

個々の事業者自らが観光客の誘致に取り組むことはもとより、より魅力的なものを提供していくためには事業者間の連携が重要であり、それらをつなぐ役割を担う（社）福井県観光連盟が中心となって取り組む必要がある。県は、観光連盟の自主的な取組みに対し人的、財政的な支援を行うものとする。

第 5 今後の観光振興の方向性

集客力の向上を図るため、人材の育成、観光地や宿泊施設の魅力づくりを進めるとともに、年齢層や地域などターゲットを絞った観光客の誘致を促進する。

1 育てる ～ 観光地の人づくり ～

（1）現況

- 観光地の魅力を高めるリーダー、観光地を案内する「語り部」、小中高校の体験学習を受け入れるためのインストラクター、観光地を案内する通訳ボランティアが不足している。

（2）今後の取組み

- 観光地づくりを推進するリーダーの育成
- コンテストの開催などによる「語り部」の養成

- 自然体験のインストラクターの育成
- 通訳ボランティアの育成・参加の推進

2 磨 く ～ 観光スポットの再発見 ～

(1) 現況

- 東尋坊、永平寺などの既存の観光地は観光客が減少している。
〔東尋坊 永平寺〕
 - ・ 「見る観光」の典型的な例であり、多様化する観光客のニーズに対応できていない。
 - ・ 周辺施設が昔のままであり、新しい魅力の創出が必要である。
- 〔芦原温泉〕
 - ・ 「囲い込み」形であり、街並みの散策など温泉地の雰囲気を楽しむことができない。
 - ・ 旅行エージェントへの依存度が高く、個人・小グループに十分対応しきれていない。

(2) 今後の取組み

- 単体の観光地だけではなく、テーマ性、ストーリー性を持って観光地を結び付けることによる魅力の向上
- 地域密着型のイベント開催など街中散策への誘導によるリピーターの確保
- 足下灯の輝く歩道など、観光客が散策を楽しむことができる快適な観光地づくり
- 古い街なみや農村部の古民家再生など美しい景観の整備
- 一乗谷朝倉氏遺跡の整備

3 迎える ～ 宿泊施設の魅力づくり ～

(1) 現況

- 宿泊施設総数では、北陸3県で本県がトップであるが、小規模なものが多い。
- 民宿数が他の2県と比べて跳び抜けて多い。

(2) 今後の取組み

- 農業体験などのグリーンツーリズムと民宿を結びつけた観光コースの造成
- 民宿の魅力を高めるための取組み

4 絞り込む ～ 対象を絞った観光客の誘致 ～

4 - 1 中高年齢層

(1) 現況

- 余暇活動などの自由時間が多く、観光消費額が高い。
- 国内旅行志向が強い。
- 健康に関心が高まる年齢層である。
- 「歴史・文化施設」「温泉」に高い関心を持っている。

(2) 今後の取組み

- 中高年齢層向けの旅行商品の開発促進
(「歴史・文化施設」と「温泉」の組み合わせ等)
- 旅行雑誌やパンフレットなど紙情報媒体を主とした情報発信

4 - 2 女性

(1) 現況

- 旅行先の決定権は女性にあるといわれている。
- 旅行に対する関心が高く、旅行に出かける割合が高い。
- 若年層は、海水浴やスキーなどアウトドア志向が強い。
- 「花」、「食」、「美容」に関心が高い。

(2) 今後の取組み

- 女性客向けに工夫したサービスの提供
- 「健康と美容」や「花」など女性のニーズに合った切り口による情報発信

4 - 3 教育旅行

(1) 現況

- 「総合的な学習の時間」と連動し、体験学習を取り入れた旅行へと変化している。
- 将来のリピーターの拡大につながる。

(2) 今後の取組み

- 体験学習プログラムの整備を促進（滞在期間中の体験学習の内容と日程）
- 受け入れ環境の整備促進
（体験学習のためのインストラクターの育成など）
- 関西・中京地区などターゲットを絞った誘致活動

4 - 4 東アジア

(1) 現況

- 訪日客の57%は東アジアからとなっている。（H15:521万人中296万人）
- 東アジア各国・地域の観光消費額は比較的高い。
- 東アジア各国・地域のリピーター率が高い。（韓国52%、台湾71%、香港77%）
- 都道府県別では全国第40位（平成14年の推計で約21,000人、0.4%）

(2) 今後の取組み

- マスコミやエージェントなどの招へい、インターネットによる情報発信
- 県海外事務所などによる継続的なアプローチ
- 新規旅行商品企画への支援
- 広域連携による誘致促進（関西地域、中部地域、北陸地域、北近畿など）
- 外国人観光客の受け入れ体制の整備
（外国人向け料金体系の設定、通訳ボランティアの育成、外国語標記の促進など）

4 - 5 コンベンション

(1) 現況

- （財）福井コンベンションビューローでは、コンベンション開催への支援（開催助成金の交付）などを行っているが、制度が主催者に十分知られていない。
- 本県の会議施設や宿泊施設は点在しており、大規模なコンベンションの誘致は難しい状況にある。
- 福井市内での開催がほとんどである。

(2) 今後の取組み

- ミーティングエキスポなど全国的なイベントを活用した主催者への働きかけ
- 開催助成金制度の拡充
- 観光情報の提供などによるアフターコンベンションへの誘導
- 県下全域での開催に向けた取組み（エリアごとの協賛店マップの作成など）